

## 30年5月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 5月1日～ 30年5月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
5月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目   |        | 30/5月  | 6月     | 7月     |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 入荷動向 | 国産材製材品 | △ 33.3 | △ 25.0 | △ 16.7 |
|      | 外材製材品  | △ 20.0 | △ 20.0 | △ 10.0 |
|      | その他    | —      | —      | —      |
| 販売動向 | 国産材製材品 | 0.0    | △ 8.3  | 0.0    |
|      | 外材製材品  | △ 30.0 | △ 10.0 | △ 10.0 |
|      | その他    | —      | —      | —      |
| 在庫動向 | 国産材製材品 | △ 16.7 | △ 8.3  | 0.0    |
|      | 外材製材品  | △ 10.0 | △ 10.0 | 0.0    |
|      | その他    | —      | —      | —      |

・荷動き動向は国産材製材品、外材製材品とも3カ月連続減少。

・国産材製材品の販売動向は5月の横ばいから6月は減少、7月は再び横ばいに。外材製材品は3カ月連続減少。

・在庫動向は国産材製材品、外材製材品とも5月、6月の減少から7月は横ばいに。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

| 品目            |             | 30/5月  | 6月     | 7月     |
|---------------|-------------|--------|--------|--------|
| スギ            | 柱角 KD10.5×3 | 8.3    | 0.0    | 0.0    |
|               | 柱角 KD12×3   | 0.0    | 0.0    | 0.0    |
|               | 通し柱 12×6    | △ 25.0 | △ 33.3 | △ 33.3 |
|               | 桁角          | 0.0    | 0.0    | 0.0    |
|               | 母屋角         | 0.0    | 0.0    | 0.0    |
|               | タルキ         | 0.0    | 0.0    | 0.0    |
|               | 間柱          | △ 8.3  | 0.0    | 0.0    |
|               | 加工板         | 0.0    | 0.0    | 0.0    |
|               | ヌキ          | 8.3    | 0.0    | 0.0    |
|               | 平割          | 0.0    | 0.0    | 0.0    |
| ヒノキ           | 柱角 KD10.5×3 | 0.0    | 8.3    | 8.3    |
|               | 柱角 KD12×3   | 0.0    | 0.0    | 0.0    |
|               | 土台角 10.5×4  | 0.0    | 8.3    | 8.3    |
|               | 土台角 12×4    | 0.0    | 0.0    | 0.0    |
|               | 通し柱 12×6    | 0.0    | 0.0    | 0.0    |
| カラマツ土台角10.5×4 | 0.0         | 0.0    | 0.0    |        |
| 米マツ平角         | 0.0         | 0.0    | 0.0    |        |
| 米マツ割物         | 16.7        | 16.7   | 0.0    |        |
| 北洋エゾマツタルキ     | 0.0         | 0.0    | 0.0    |        |
| 北洋アカマツタルキ     | 12.5        | 0.0    | 0.0    |        |

・スギの価格動向は通し柱12×6が使用頻度が低いいため弱含み。その他の品目は保合。

・ヒノキは柱角KD10.5×3、土台角10.5×4はやや強含み。その他の品目は保合。

・カラマツ土台角保合

・米マツ平角は保合、割物は強含み。

・北洋エゾマツタルキ保合。

・北洋アカマツタルキは強含み。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・米ツガ入荷ほとんどなし。W/W 4m、W/W 27×105 3m 少ない。販売は動きが悪い。在庫は若干多め。6月の記念市に向けて補充予定（関東）。
- ・荷動き、相場とも全体的に動きなし（中部）。
- ・九州、四国からの製材品の入荷が悪化している。トラックの加重制限の関係とトラックドライバーの不足が影響している。販売動向は、国産材製材品の売れ行きに黄色信号が灯ってきた。例年より動きが悪い。外材製材品は仕入価格の高騰を販売単価に反映しているが、売れない状況が続いている。元落は国産材は増えている。外材製材品の在庫は横ばい（中部）。
- ・ヒノキは丸太不足とバイオマス発電との競合で入荷量が減少（近畿）。

(価格動向)

- ・スギ柱角（KD10.5cm）63,000円/m<sup>3</sup>、（KD12.0cm）63,000円/m<sup>3</sup>、スギ桁角（東北材）42,000円/m<sup>3</sup>、スギ母屋角（二等）30,000円/m<sup>3</sup>、スギタルキ（東北材）45,000円/m<sup>3</sup>、スギ間柱（特-KD）63,000円/m<sup>3</sup>、スギ加工板（グリーン材）東2,800円、（KD）東4,800円、スギヌキ（東北材）42,000円//m<sup>3</sup>、秋田材52,000円//m<sup>3</sup> スギ平割（プレーナー）45,000円/m<sup>3</sup>、同（ラフ）43,000/m<sup>3</sup>、ヒノキ柱角（KD）・土台角10.5cm、12.5cm 85,000円/m<sup>3</sup>、米マツ平角 KD 70,000円/m<sup>3</sup>、米マツ割物 AD 74,000円/m<sup>3</sup>、北洋アカマツタルキ（アSEMBル単価）（S）70,000円/m<sup>3</sup>、（P）60,000円/m<sup>3</sup>、（バンドル単価）（S）68,000円/m<sup>3</sup>、（P）58,000円/m<sup>3</sup>（関東）。
- ・東海地区は、スギ柱角を関東地区や北陸地区程使用しないため、価格の変動に大きな動きはない。消費が多いと需給の関係で価格変動の上下が大きくなる。スギ通し柱は使用頻度が低いため、価格は下落の途に到っている・スギ製品全般に価格は横ばい基調。ヒノキ柱角は、高めの価格状態が続いている。ヒノキ土台角は柱角程強くないが価格は強め。ヒノキ土台角は価格強く、通し柱は弱め。通し柱については使用されにくくなっている。米マツ平角、割物は価格横ばい。タルキは価格が強い（中部）。
- ・スギ間柱は品薄も相場変わらず。ヒノキ土台角、特に12.0角は品薄も需要面でバランスが取れており横ばい（中部）。
- ・ヒノキ柱角（KD）10.5及び土台角10.5は原木不足の影響でやや上昇。外材全般為替の影響で強含み。しかし需要が伸びず価格は保合状態（近畿）。